

在宅医療推進を支える中核施設が 今春、相次いで団地内にオープン

豊四季台団地を舞台に、柏市、東京大学高齢社会総合研究機構（東大IOG）、UR都市機構の3者で進めている「長寿社会のまちづくり」プロジェクト。その中で「生きがい就労の創成」と並ぶもう一つの柱である「在宅医療の推進」が、今春、大きく前進する。豊四季台団地内に、さまざまな介護・医療関連施設を併設したサービス付き高齢者向け施設と、在宅医療を支える柏地域医療連携センターがオープンする。

サービス付き高齢者向け住宅は、UR都市機構が豊四季台団地内の敷地を賃貸して、民間事業者である㈱学研ココファンが開設する。併設されるのは、24時間対応の訪問介護事業所や在宅療養支援診療所、グループホームなど。この他に地域交流スペースなども設けられる予定だ。



今春、オープンするサービス付き高齢者向け住宅のイメージ図